の家に行幸あり、御かたたがひのよしなり、あるじの殿○藤原良基たちゐけいめいせらる、山のすがた水の心ばへ、いとおもしろし、東にたかき松山あり、山のふもとよりわきいづる水のながれ、松のひゞきをそへていとすゞし、水のうへに二かいをつくりかけたれば、やがて座の中をながれ行石間の水、さながらそでうつばかりなり、ながれの末の池のすがた、入江〳〵にゑまゞのたたずまひいとおもしろく、西のながれのすゑに山を隔て、五尺ばかりの瀧落たり、瀧のうへにつくりかけたる二かいのさまなど、山里めきていとをかしう見ゆ、池の水には三の舟をうかぶ、詩歌管絃なるべし、まづ歌の舟にめされて御あそびあり、あるじの殿左右の大將など御ふねにまゐる、詩の舟には太政大臣のる、管絃は右大臣以下のる、池水三まはりのゝち、また管絃の舟にめしうつりて御樂あり、そのゝち一日の殿におりさせ給てなほ御遊、簾中の物のねどもいとおもしろし、詩歌のひかう、夜に入てやがてつり殿に御倚子を立てつかせ給、水の流にさか月うけて詩歌つかうまつる、曲水の宴の心ちぞするや、ひ水すいはんなどまゐりて、よ一夜あそびあかさせ給、かつらのうかひかゞりともして、にし河のあゆなどもてあそばせ給ふ、あくるあした北の馬場のおとゞにて、殿上人ずゐゑんのけいばあり、腰輿にてばゞ殿へ行幸あり、殿以下みなあゆみつゞかせ給ふ、ばゞのやは、にしひんがしへをかしくつくりつゞけたり、ひんがしおもてには まりのかゝりあり、いとすゞしき木だちものきよげに、塵もすゑぬしらすに、あをみわたれる柳さくらの夏ふかき木だちもをりしりがほなり、松屋の殿上人どもおもひ〳〵に出たつ、けいこのすがたいとおもしろし、けい馬はてぬればやがて御まりあり、弘長○亀山嘉元○後二條の例にまかせて、あるじの殿あげまりをつとむ、難波御子左の人々、おもしろきあしども數をつくしておもひやるべし、月になりゆくまで數おほくあがる、事はてぬればまたいづみの屋へかへらせ給、今夜はまた内々の詩歌あはせなり、いとおもしろき女房の歌ともを名ある文人に合らる、三百番